

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4290100199		
法人名	医療法人財団 健友会		
事業所名	グループホーム 風の丘		
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市戸町4丁目7-20 (電話) 095-898-5021		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年4月10日

## 【情報提供票より】(平成19年4月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 人, 常勤換算 4.7人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	2 階~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~37,200 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要

利用者人数	15 名	男性	0 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大浦診療所、上戸町病院、よしだ歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎の市街地に近い小高い丘の上からは女神大橋が望め、夜景も美しく静かな環境に建てられている。“健康で安心して暮らすための住みよい町づくりをしたい”という法人の思いから多世代の人達が交流しながら、支えあい生活できる多世代共生型複合施設として“戸町ふくし村”が建設されている。ホームと地域が協力して開催した夏祭りには地域の方が600人も参加する等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。敷地内には介護保険料のサービスや保育所、学童保育や地域の方も自由に利用できる多目的ホールがあり、ボランティアの喫茶店が週2回開かれ、職員やサービス利用中の方も利用し、自然な形で地域との交流が行われている。常に入居者の視点に立ち求めているものを探しながら寄り添い、その人らしく暮らし続ける為の支援に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 開設初めての自己評価・外部評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長・管理者は評価の意義や活用方法について定例会で説明し、項目毎の内容については管理者が行っている。施設中・管理者で自己評価を行い、職員と話し合いを持ちその結果をまとめているが、評価内容が難しいという意見が多く、項目一つ一つの理解は十分とは言えず、課題が大きい事を感じている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 系列の事業所と合同で開催し市の実施調査やホームの活動報告を行い、合同誕生会の報告時“誕生日はその日しかない”と、ご意見を頂き個別に実施している。ボランティアについて民生委員や公民館活動、地域の方々のご紹介やご協力を頂いている。施設長が訪問して開催日の案内やご意見や議題の追加を伺っている。定期的に“風の丘だより”を持って伺って情報提供を行い食事について相談し助言を頂いたり、解らない事を電話で相談し課題解決に向け市担当者や協働している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月“風の丘だより”をお渡ししたり来訪の都度、暮らしぶりや健康状態をお伝えして、何かある時は直ぐに電話で報告し、職員の異動についてもお便りでの報告を予定している。“うちをよくし隊”箱を隣接事業所等にも設置したり、家族の来訪時に声をかけご意見・苦情等を書いて頂けるように努めている。市町村や国保連の相談窓口や外部の相談先を掲示板したり、家族会を設立し積極的な働きかけを行っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の方と協力して夏祭りを開催し入居者と共に出店をしたり、併設の多目的ホールでの開催される行事を見に行ったり、ボランティア喫茶に行ったり入居者がグランドピアノを弾く等している。職員が町内の精霊船や戸町くちの御輿を担ぎ、利用者も見学したり、敬老会や学童保育、併設の幼稚園の子供達との相互訪問で楽しく過ごす一時もある。地域の独居老人の食事会で職員が、健康チェックに伺ったり「何かあればいつでも参加します」と、お伝えしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“住み慣れた土地で町の住人として”という思いが根底にあり、法人の理念を基に“今いっぱい輝いて”その方らしい生き活きた表情、和気あいあい、ゆったり安心できる、輝いて生きる等、開設前に職員其々の言葉や考えを話し合い作っている。理念の中には入居者と職員が家族のように家庭での役割を果たしながら、住み慣れた土地で町の住民として社会に参加しながら、その人らしく穏やかな暮らしが送れるように支援したいという思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を業務日誌にファイルしたり壁に掲示する等、常に目につき意識できるようにしたり、申し送りの時間には安心して、楽しく、生き生きと過ごす意識できるように伝えたり、毎月のミーティング時に入居者個々の状態や、対応について理念に照らし合わせ全員で考えている。ケアの場面で寄り添うケアを実践しているが、其々の経験や考え方が現れる場面もあり、理念の中の深い意味を全職員が理解する迄には至っていない。	○	日々のサービス提供場面で、常に理念を意識した実践につながるよう、現場で気づいた事や気になる事、何を優先しなければいけないか確認しながら、皆で注意し合いながら理念に触れる時間を作って行きたいと考えており、今後の更なる取り組みに期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方と協力してホーム前で夏祭りを開催し、入居者と共に炊き込みご飯・くじ・ビール・枝豆等の出店、併設多目的ホールでの腹話術や劇団、クラシックコンサート、ボランティア喫茶の利用や入居者がグランドピアノを弾く等している。職員が町内の精霊船やくんちの御輿を担ぎ利用者も見学し、敬老会や学童保育、併設幼稚園と相互訪問し楽しく過ごす一時もある。独居老人の食事会で職員が健康チェックをしたり「何かあればいつでも参加します」とお伝えしている。	○	地域の行事に共に取り組みたいと考えており、自治会の回覧板を入居者と一緒に戻す事等から始め、主体的に公園清掃に取り組んだり、餅つきやホームの行事を増やしていく等、今後の関係作りを強化され更なる活躍に期待していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長・管理者は評価の意義や活用方法について定例会で説明し、項目毎の内容については管理者が行っている。施設中・管理者で自己評価を行い、職員と話し合いを持ちその結果をまとめているが、評価内容が難しいという意見が多く、項目一つ一つの理解は十分とは言えず、課題が大きい事を感じている。	○	外部評価の結果を踏まえて項目の理解につなげていき、全職員で自己評価に取り組んでいきたいと考えている。職員と話し合い取り組みやすい項目から始める等の検討に期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	民生委員や町内や家族の方等に参加を願ひ、系列の事業所と合同で定期的に開催し市の実施調査やホームの活動報告を行っている。両ユニットの合同誕生会の報告時「その方の誕生日はその日しかないよ」と、ご意見を頂き個別に実施している。ボランティアを依頼した時、民生委員の方や公民館活動、地域の方々のご紹介やご協力を得られるようになった。会議終了時に次回の案内をし、開催前に施設長が訪問し、開催日の案内や「何かご意見を頂ければ」と議題の追加を伺っている。	○	運営推進会議に入居者も参加して頂く為に、食事風景を見て頂いたり一緒に昼食に入って頂く等、自然な形でご意見を頂ける場にして行きたいとの思いや民謡教室等の開催も考えており、その中で入居者や皆さんからのご意見をお聞きする場作りに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に包括支援センターに“風の丘だより”を持って行き、市への報告も行っており、情報提供書や会議の報告書は郵送している。市の窓口へ手続き等に伺ったり、食事作りについて相談し、外食産業を利用しながらホーム内で関わる部分等の助言を頂いたり、虐待についてや運営について知らない事を電話で相談する等、市担当者に相談し課題解決に向け協働している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書や毎月の“風の丘だより”等を入れた連絡用の壁掛けがあり、来訪時にお渡ししたり来訪の都度、暮らしぶりや健康状態、ホームでの様子をお伝えするようにし、訪問間隔が開く家族には請求書と一緒にお便りをお送りし、健康状態の変化がある時は直ぐに電話で報告している。職員の異動をした時はお便りでの報告を予定しており、金銭管理は原則行なわれないが月500円をお預りし、行事や外食、個々の教材費等に利用し年度末に精算している。	○	毎月の健康状態や暮らしぶりについて、担当者が個別に手紙でお知らせしていたが、今は中断中で再開したいという思いや、入居者と一緒に行事等の写真をアルバムにする等、家族の方に普段の生活状況が分かるような報告の仕方を考えられている。今後の取り組みに期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	系列事業所職員と利用者で造った“うちをよくし隊”箱を設置し、家族の来訪時「何かありませんか」と声をかけご意見・苦情等と言って頂けるように努めている。市町村や国保連の相談窓口や法人の弁護士や“健康友の会”の役員等、外部の相談先を掲示したり、家族会を設立積極的に働きかけているが、他方のユニットではご意見を頂く事はあまりなく、ご要望等は“気づきノート”に対応策まで記入して回覧・共有し、必要に応じ法人全体の管理会議に諮っている。	○	法人内や系列事業所で頂いたご意見も、対策やその回答等を掲示していく事で、更にご意見を頂けるよう試みる予定である。定期的な無記名アンケート必要性を感じており、○×式で簡単に記入できる設問や意見を書きやすい書式の構想など考えている。ご意見やご要望を頂く事でホームの取り組みにつながり、入居者の方にとってもより安心して過ごせる場になる事を併せて発信していられる等、今後の取り組みに期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は潜在能力の啓発や新たな視点や発想ができる事や、日常的な連携や入居者と顔馴染みの関係を築き、ケアの質の向上につながっていくと考えて、ユニット間や系列事業所との異動は今後も行って行く予定である。休みの希望に極力応じるようにしたり、施設長・管理者が育成面接を行う中で悩みを聞き、職員の歓迎会や学習会後の交流会、ボーリング大会等の親睦によるストレスの軽減、戸町ふくし村全館での御用納めや入居者・家族・職員での忘年会も計画している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設初年度であり事業所全体の研修計画は作成され、法人内で経年別・職責者研修を年1回受講するようになっており、系列事業所と合同で職種毎に勉強会を行い、グループホーム連絡協議会等の外部研修は、内容に応じ費用負担や出勤扱い等、研修が受けやすいよう配慮されている。施設長は育成面接で本人の意向を確認し適性も考えているが、個別の育成計画はなく研修後に伝達研修を行う事で、自分の意見を発表する訓練にもつなげている。	○	管理者自らに部・外部研修を問わず出席し、職員が主体的に研修に参加できるような、学ぶ場の雰囲気作りや職員が交代で参加できるよう働きかけを考えている。育成面接を活用し来年度に向けた研修計画を作成中であり、今後職員の経験や習熟度に応じた、職員毎の育成計画が作成される事に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会に加盟し、管理者が毎月参加する予定である。学習会への参加の声をかけを行っているが、積極的に参加している状況とは言えず、施設長は同業者との交流や相互訪問・見学等、気楽に往き来できる関係作りを考えている。	○	時間調整等行いながら連絡協議会への参加や、近くのグループホームへの相互訪問・見学等を検討中であり、同業者との交流の場に職員参加の機会が持てるよう、取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	系列事業所を利用中の方や職員が見学に来たり、家族と一緒に見学に来られたり、病院やご自宅へ施設長・管理者が何度か訪問し、顔馴染みの関係を作っている。入居後も家族に頻りに訪問して頂いたり、系列事業所から入居された時には、職員に訪問を依頼したり、夜間に対応して貰う等の協力も得ている。	○	施設長・管理者が入居予定者の訪問を行っているが、職員の訪問も実施していく事で、その方の馴染みの環境や生活の把握にもなり、ケアに反映出来ると考えられると共に、職員からも「顔馴染みの関係が早く作れるのでは」との声もあり今後、検討しながら取り組んでいきたいと考えており、安心して利用できるような支援に期待していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な料理の盛り付けや、味付けを見て貰い足りない物や、お菓子作りを教えて頂いたり、洗濯物をたたみ名前を確認しながら個別に仕付けて頂いたりしている。亡くなられたご主人を探している時、一緒に遺影を見ながら思い出話をする事で、落ち着かれ「ありがとう」と感謝の言葉を頂き、人の尊厳について思いが深まる。職員が笑顔が見られないと「きついの？大丈夫、どこか悪いの」と聞かれ、入居者の笑顔が職員のケアのバロメーターだと感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や表情から思いを把握し話し合っているが、把握できていない方もおり「痛い、目が見えない」と繰り返し言われる方に寄り添い、家族と相談し受診して安心されるよう支援している。転倒後のADL低下と再発防止の為、家族・本人と協議し離床センサーを設置したが馴染めず、除去し「外に行きたい、美容院に行きたい、家にも行きたい」という希望に沿って、下肢筋力訓練に取り組み活き活きとされてきた。気分転換に花壇をや幼稚園に行ったり、食材の買い出しやドライブに行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアの場面や入浴等ゆったりした時に、入居者がフツと漏らした言葉や場面をお聞きしたり、気付いた事や思い、生活習慣等を踏まえ計画の中に反映させるようにしているが、入居者と十分に話し合っていない方がいたり、家族の意見を聞く場や計画作成者と担当者が話し合っているが、意見があまり出ず意見が反映されない方もいる。目標や課題が大括りで介護者の視点であったり、地域で暮らす視点が盛り込まれていない方もある。	○	入居者の言葉や表情、行動や職員の気づき等を、日々の記録に記載していく事で、計画の評価やアセスメントにもつながられる。全入居者について“その人らしく暮らし続ける”為の個別・具体的な課題・目標や地域で暮らす視点が盛り込まれ、入居者や家族の意向等が十分に反映される事に期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っているが、入居者や家族の要望や状態に変化が生じた時には、日々のケアについては変更され実施しているが、設定した時期が来るまで行わない時もあったり、計画書の作成が間に合わず遅れがちになっている。特に変化が見られない入居者についても、気づきやケア変更の必要性についての検討は月に1回程度は行われている。	○	定期的な介護計画がその時の状況に即して、臨機応変に見直し計画書に反映していきたいと考えており、現状に応じた計画の見直し出来るような体制等、検討される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設長が看護師であり隣接法人施設もあり、常に連絡・相談が出来る体制や、入院時は生活状況等の情報提供を行ったり、お見舞いに伺い家族との連絡調整や、病院との連携を行っている。美容室に行ったり知人の方へ面会に行く時の送迎や通院介助、干し柿・饅頭・おはぎ・カレー・皿うどん・餃子等を作り、法人内職員に販売し、レクリエーションやプレゼント用の財源にしている。紙おむつの紹介や買い物等、安心して暮らし続けて頂く為の支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きし以前からのかかりつけ医で受診される方や、同意の上、協力医療機関に変更される方もおり、職員が主治医に何時でも相談でき電話でお返事を頂く等の体制は出来ている。“受診のお願い”の手紙を家族にお渡しし、入居者の状況で気になる事を医師にお伝えできるようにし、通院介助をお願いし、受診結果や医師からの返事をお聞きし情報を共有している。職員が通院介助を行った時、特に変化がない場合は家族の来訪時に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に”重度化した場合における看取り指針”をお渡しし、全入居者・家族の意向を把握しているが、事業所として対応できる範囲や、状態について特に話し合っていないが、話し合いが必要な状況は未だ生じていない。ターミナルケアの経験を通じた勉強会を実施しており、実践研修として経験させて頂けるの場を検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「様」でお呼びする事を研修で伝えているが、生活の場で馴染まないと感じていない。食事摂取量が低下した時「食べてください」や緊急止むを得ない時に静止される時や、希望や状況により方言が良い時もあるが、親しみを越えないよう常に心掛け、尊敬の念をもって接し、研修時に繰り返し伝え指導している。日々の記録を自宅で書く職員がいたが直ぐに注意し、その後は個人情報の保護や漏えい防止について、全職員が理解し徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるよう声かけや誘導は行うが、ご希望をお聞きし無理強いはしていない。口腔ケアや内服等を嫌がられる方も時間を置いたり、方法を変える等工夫している。ご希望を表現されない入居者には「散歩をしましょうか」と、ウッドデッキや隣のユニットにお連れする等、直ぐに出来る事に対応している。家事にかなり時間がかかる入居者についても、健康に支障のない範囲で入居者が納得される迄、ゆっくり最後迄して頂き本人のペースを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託の副食とホームで主食と汁物を作り、時に入居者と一緒に食材を買いに行き食事を作っている。配膳・下膳やテーブル拭き、食器洗い等一連の作業を通じ力を発揮して頂いている。旬の食材の利用や疾病による食事制限時も、他の入居者と見た目が変わらないよう盛り付けを工夫したり、職員も同じ食卓につき必要な介助を行いながら、楽しい雰囲気を作るようにしている。出前を取ったり希望をお聞きしながら、ベランダで食事をし楽しんで頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間はある程度決め隔日に入浴して頂いているが、希望や必要に応じて毎日入って頂き、体調に無理のない範囲で入っている時間や湯温、順番やシャンプーや石鹸等の希望に応じている。入浴を嫌がる方も、相性の良い職員が声をかけたり、併設施設の大浴場の空いている時間に、温泉気分を外を眺めながらゆっくり入って頂くようにしている。菖蒲湯やゆず湯等季節を楽しんで頂けるよう工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のその日の体調に合わせて生活歴や、趣味を活かして裁縫やお米とぎ、食事の後片付け、カレンダーの色塗り、新聞を職員や他の方への読み聞かせや音楽を聴いたり、造船の仕草の話や炭坑節を職員に教えてくださる等、役割や楽しみ事を持って頂けるよう働きかけている。月に1～2回入居者と一緒に施設全館の職員向けに食事を作り販売し、人の役に立っているという喜びと共に、収益を行事費に利用し楽しみの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	坂道が多く外出時は車両の調整で希望時直ぐに対応できない事も多く、家族と一緒に馴染みの所へ行って頂いたり、車を利用できる時は近くの店等におやつや食材を買いに行ったり、美容室にお連れしたりドライブや町内行事へ参加する等、週に2～3回外出の機会を作っている。出来るだけ外出の機会を確保する為、受診も一つの外出と捉え定期的な往診を避けたり、隣接幼稚園の訪問や花壇を見に行く等、戸外へ出て気分転換が出来るような支援は行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	20:30～7:00迄は防犯上の施錠を行っているが、ホーム出入口や玄関、エレベーターや階段も常に自由に利用できる。入居者が落ち着かなくなる時間帯・傾向等を把握し、見守りの強化や興味を他に逸らしたり、職員同士で声を掛け合い事前に対応策を取っており、建物全体の事務室が1階フロアの玄関前にあり、常に入居者の見守りが出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定して入居者、職員、消防署も含め避難訓練を行い、今後は年2回の訓練を予定し消防署や施設の協力も頂きながら、地域の消防団にも参加をお願いしている。近隣のアパートや自治会と「協力していきましょう」という話が出ているが、災害時の協力について具体的にはなく、話し合いを始める予定である。災害に備えた食料は準備されていないが、委託業者が災害時食料も準備する事を契約しており、保健所から飲料として使用許可のある井戸水がある。	○	委託業者からの災害時の食料提供については、対応範囲・方法・数量等、事前に詳細の確認をすると共に、寒さ対策や排泄への対応等、必要な物品・数量等検討される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に従い、委託業者が調理した食事が提供され、肉や魚が嫌いな人には食材や青魚を白身魚に変更する等、好みに対応している。飲み物も入居者に選んで頂けるよう数種類を用意している。食事摂取量・飲水量を把握・記録し、肉料理で残食が多いメニューの時は給食委員会で検討・改善している。定期的な体重測定・血液検査の結果に基づき医師等からの助言を得ている。	○	1日の全体を通してバランスのとれた食事が提供されているが、個々の体格や性別・運動量等に応じた必要熱量を把握した上で食事が提供され、適正な体重の維持や健康管理がされる事に期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井迄の大きな窓のあるリビングは明るく季節の移ろいが感じ取れ、自然の光が射し込みロールカーテンで調整している。廊下が広く車椅子の方は利用し易いが、手摺りを使用する方にとっては少し不安が見受けられるようである。古い掛け時計や筆筒等が供えられ畳の空間やソファが設置され、思い思いに過ごせるようになっているが、馴染みの環境に少し欠ける部分もある。車椅子利用の方の目線から少し高い位置に掲示板があったり、トイレの便座も少し高めで対応策を検討中である。	○	ランチョンマットや暖簾などを手作りしたり、活用していく事で家庭的な雰囲気近づけ、寛げる空間にしたいと考えられており、掲示板の高さや室内についても、家族のご意見や職員と話し合う等検討し、居心地の良い空間作りに期待していきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやカーテン、エアコン、照明はホームで備え付けられているが、入居時に本人や家族と相談して仏壇、タンスやミニテーブル、加湿器やCDプレーヤー等入居者が使い慣れた物を持って来て頂いている。室内の壁は家族や外出時の写真、カレンダー等を入居者や家族の好みに飾られている。		